



国際標準人間

原田節雄 ソニー（株）
Setsuo.Harada@jp.sony.com

ずっと昔、欧州に駐在していたときの話だ。その頃のソニーは、電卓を製造販売していた。電卓といっても、複雑な計算機能を持つ高級機が多かった。その中に、計算結果のプリントアウトを銀紙のロール紙に焼付出力する機種があった。私は欧州の補修用部品供給部門で働いていた。その補修用部品供給部門では、アフターサービスも担当していた。

ある日のことだ。電卓のクレーム(苦情)が入った。銀紙のロール紙に黒く印刷された数字が読めないと言う。どれどれと言いながら数字を見ると、私にはくっきりと見えて読める。最初は何のクレームか、まったく理解できなかった。だから、ともかく曖昧な笑いを相手に返した。日本人らしい態度で返事をしたのだ。

それから考えた。そのクレームを持ち込んできた外国人は、決して嘘をつくような人ではない。欧州は暗い。空も暗いし、部屋も暗い。人の心も、南洋に比べると暗いような気がする。欧州人は明るいところで目が見えない。サングラスが必要だ。ところが、暗いところで目が見える。相手の瞳を見たら青かった。

私は近くにいた4人の欧州人を選んで実験をした。2人は黒い瞳で、残りの2人は青い瞳だ。思ったとおり、黒い瞳は「読める」と言う。青い瞳は「読めない」と言う。光が反射して眩しいのだ。さっそく日本の電卓設計部門に連絡した。すぐに「そんな馬鹿な」という返事が来た。そして、それ以上の説明は止めた。人間の国際標準化が必要だと思った。

話を換えよう。海外で生活していると、だんだんと言語が英語モードになってくる。夢も英語で見えるようになる。浅く簡単な思考なら、英語から日本語に戻るのが面倒になることもある。もちろん、深く複雑な思考に入ると、どうしても日本語が必要になる。

やがて英語も上達して、私は海外から日本へ帰任した。そして、取扱説明書作成部門で働くようになった。ある日のことだ。私は朝から英語モードに入って、英語で取扱説明書を書いていた。会社に着く前の通勤電車の中から、すでに英語をぶつぶつと話していくのだ。そうすると、会社に着く頃には、自分の思考が完全に英語になっている。英語で文章を書くときは、そうでもないことには、書いた英語が日本語英語になってしまう。

そして昼休みになった。近くにあった国際標準化の本で、ISOで検討中という非常用出口の図表示を見た。いろいろな国がいろいろな意見を出していた。海外から理解されていない日本提案の図表示を見ると、どうしても

平面に見える。ドアの部分がドアに見えない。これでは標準案として失格だ。

日本が反対している海外提案の図表示を見ると、ドアと避難する人の関係が明確に分かる。とても分かりやすい図表示だ。日本の委員は、海外提案に理由もなく反対しているのではないか、海外提案こそ国際標準になるべきだ、そう思った。

やがて昼休みが終わり、それから3時間ほど日本語で会議をした。込み入った議論が日本語で続き、朝の英語モードが頭から消えてしまった。そうして、その日本語の会議が終わってから自分の席に戻り、さきほどの図表示を見た。海外が反対している日本提案の図表示を見ると、立体的でとても分かりやすい。

ところが、日本が反対している海外提案の図表示を見ると、変な線が見えて、とても瞬時に理解できる図表示ではない。海外の委員は、日本提案に理由もなく反対しているのではないか、日本提案こそ国際標準になるべきだ、そう思った。

自分の考えが矛盾している。頭が混乱してきた。そこで冷静になって考えてみた。先に図表示を見た時と、後に図表示を見た時との違いは、そのときの思考言語だと気づいた。アラブ諸国では、文字を右から左に書く。日本語も文字を右から左に書く。エジプトの絵画で人の横顔を見ると、横顔に正面を向いた目がついている。

自分も幼い頃、同じような絵を描いていた。そして図工の先生から「おかしい」と言われた。自信はなかったが、文化(言語)で図の見え方が違うのではないか、そう思った。貨幣で経済が決まる。宗教で思想が決まる。言語で文化が決まる。人は言語で考えてから、図表示の意味を理解する。図表示は文化そのものだ。

貨幣、宗教、言語は、それぞれ経済、思想、文化を決めるツールなのだ。国際標準化に必要なのは、技術の標準化より先に、経済、思想、文化の標準を決めてしまうことなのだろうか。そうすれば国際標準人間が完成する。何を標準化するにも、それに文句を言う人はいなくなる。ユーロとカトリックの欧州で、英語が欧州言語になれば、没個性的な欧州標準人間が増えていく。ドルとプロテスタントと英語の米国は、人間標準化が進んだ国だったが、今ではスペイン語の侵入で個性的な非米国標準人間が増えている。円、仏教、日本語の日本人は、やはり国際標準人間から見れば異端なのだ。

(平成18年4月28日受付)